

令和5年 府中市立保育所自己評価チェックシート実施結果

府中市立三本木保育所

【参考】公立保育所平均値

自己評価項目		はい	いいえ	特記事項	はい	いいえ
1	人権尊重	100%	0%	子どもへの対応・声掛けもその都度振り返り、より適切だったか考えるようにしている。他者に誤解されない対応、説明できる関わりを心掛けている。保護者に対しても決めつけや差別的な関わりはしていない。	99.9%	0.1%
2	説明責任	100%	0%	利用者の声に傾聴する姿勢を大切にするとともに思いに寄り添いながら伝えるように心掛けている。	99.5%	0.5%
3	情報保護	100%	0%	安全に管理するために周囲と声をかけあい、ダブルチェックやチェックリストを活用している。	99.5%	0.5%
4	苦情解決	98.5%	1.5%	日々の保護者との話や関わりの中での気付きや様子を担当間だけでなくブロック、事務所と情報共有できるように連絡を取っている。また、第三者委員会設置に関する事など、会計年度任用職員に対しても、年度初めにしっかりと周知していく。	99.3%	0.7%
5	保育内容	99.1%	0.9%	主体的な取り組みができる環境や関わりという部分では、ハード面を含め、まだ課題が残る。子どもたちがワクワクするような環境、声から広がる保育など、より質を高めていくことは必要であると感じる。	98.8%	1.2%
6	小学校との連携	100%	0%	要録だけでなく、聞き取りも実施するなど、連携できる関係が既に築かれていることを大切にしていきたい。	98.6%	1.4%
7	健康支援	100%	0%	保健室は日々の軽度のケガ(転ぶなど)から気持ちの寄り添いまで子どもにとってホッとできる場としての役割も担っている。ヒヤリハットやケガの報告を通して職員間で共有しリスクマネジメントや事故防止に日々努めている。	100%	0%
8	食育の推進	100%	0%	食事は楽しい時間になるように、食育活動含め、大人の関わり方にも焦点を当てて、話し合っている。	99.2%	0.8%
9	環境・衛生管理並びに安全管理	100%	0%	ヒヤリハットを含め、リスク、安全への管理、衛生面の管理には力を入れている。	99.9%	0.1%

自己評価項目		はい	いいえ	特記事項	はい	いいえ
10	災害への備え	100%	0%	毎月の避難訓練の中で課題などを抽出し、次に活かしている。様々な想定をする中で訓練し、子どもたちが自分自身で身を守れるよう、大人が実践する姿などを見せ、理解が深まるようにしている。	100%	0%
11	子育て支援（保護者への支援）	97.6%	2.4%	保護者のニーズに柔軟に対応し、保護者と一緒に子育てをするという視点が大切にしている。保護者とのパートナーシップが求められている。	97.4%	2.6%
12	子育て支援（地域等への支援）	99.4%	0.6%	地域の方が利用する園庭開放など、日にちや時間を把握し、心地よく利用してもらえよう場所を開けるなど、環境を整えるようにしている。	98.4%	1.6%
13	要保護児童への対応	100%	0%	様々なケースを抱えているため、家庭の様子、子どもの様子を日々の中で気にかけるように配慮している。また、子どもの様子や体の傷などのチェックに留意し、気になる点は報告を忘れないようにしている。	100%	0%
14	特色ある教育と保育 （特別な支援を要する子どもへの対応）	100%	0%	子どもの特性に合った保育を計画し、実践している。保護者と子どもの様子を常に共有し、同じ対応ができるように心がけている。	99.5%	0.5%
15	地域の実態に対応した保育事業	100%	0%	交流が再開している。色々な人との出会いや交流を大切に豊かな経験に繋がるよう地域とのつながりを大切にしている。また、子どもたちへの職場体験も大切に、保育所での経験を活かせるよう働きかけている。	94.3%	5.7%
16	研修	98.2%	1.8%	学び得たことを職員で共有する際、伝わりやすい工夫（プロジェクターを活用するなど）を行っている。	99.0%	1.0%

#### 自己評価チェックシートを実施しての振り返り

保育所の本来の役割がどこにあるか、利用者のために自分たちが存在し、公立保育所としてやるべきことは何かという姿勢は共有できていると思う。すべての職員が、保護者の就労支援を考え子どもの育ちを支えることに心をよせ、だからこそその課題を見つけみんなで話し合えるチームになっている。自分を振り返り、職員同士も意見を言い合い、利用者のために最後まで話し合える環境は、保育所の役割を理解できているからこそと考えている。

また、「地域支援センターはぐ」を兼ねた施設なので、お互いに協力しながら情報を共有できる環境にあり、府中市全体の子育て支援についても携わることができていると思う。

保育所の子も、地域の子も必要に応じて他機関との連携ができ、特に要保護児童については、多方面にわたり協力し合える関係は、公立ならではと考えられる。今後の課題としては、子ども主体の保育をもっと掘り下げて考え取り組んでいくことだと思う。コロナで縮小された様々なことは、すべてがマイナスばかりではなかったので、新しい発想で、子どもたちを真ん中においてチームとして取り組めるとよい。